

オーストラリア競馬07/08シーズンを振り返る ハイランド真理子 View from Down Under

馬インフルエンザその後

8月23日に、1年振りにシドニーのワリックファーム競馬場でレースが開催され、G2のワリックステークスも行われた。昨年の今頃は、馬インフルエンザ騒動の真最中。今年は無事開催できて、シドニーの競馬関係者はホッと胸を撫で下ろしたことだろう。ところで馬インフルエンザと言えば、8月1日からシドニー空港で新しい検疫規則が適用されることとなった。これにより、外国から輸入される馬の輸送に関わる全ての人間、そして馬自身も、ライブストック・トランスファー施設(LTF)に入らなければならないようになった。昨年の馬インフルエンザに関する調査委員会は、ウイルスはオーストラリアの検疫施設に出入りをする獣医など、人間から感染したのではないかと推測しており、そのために、今回は検疫に入る前に、まずはこのLTFでリスクコントロールをしようというわけだ。新しいルールが適用されて間もなく、シャトルスタリオンたちが到着した。ベルナディーニ、シャマダール、エクシードアンドエクセル、ハラダサン、ディラントーマスそして、オージュールズたちである。ハラダサンは、ご存知のように英国でG1レースを勝ち、スタリオンとして故郷に錦を飾った。

岐路に立つ障害レース

日本ではカラジの活躍で知られるオーストラリアの障害レースであるが、今、オーストラリアの障害レースが、存続の危機に瀕している。昨シーズン、競馬管理母体のレーシングビクトリアでは、裁判官を任命して、障害レースの将来を考える諮問委員会を設置した。死亡事故の多い障害レースの是非については、これまでも動物保護団体から廃止の圧力がかかっていたが、最近のオーストラリアの新聞では、障害レース

の終了という見出しで大きく報道している。とはいえ、現在、オーストラリアで障害レースを実施しているのは、ビクトリア州、南オーストラリア州とタスマニア州のみで、他州にとっては他人ごとには過ぎない。したがって、障害レースがなくなると言っても、あまり悲壮感がないのが現状だ。このような厳しい現実の中で、7月26日、ムーニーバレー競馬場でヒスキンス・ステーブルチェイスが行われた。優勝馬は、カントリーのトップ調教師ロバート・スムードン調教師が管理するサムアーベント。レース後、オーナーも調教師も、中山グランドジャンプ参戦への意欲を語る。しかし、その優勝ムードとうらはらに、昨年のヒスキンス優勝馬スパニッシュシンボルが、最後のラップで騎手を落とし骨折、安楽死処分になったことで、オーストラリアの障害レースに漂う暗雲は、ますます重くのしかかった。レーシングビクトリアは、レース前諮問委員会の調査結果が出るまでに、ジャンプのトライアルを充実させるなど、事故防止に努めているのだが……。

07/08シーズンのサイアーランキング

昨シーズンのリーディングサイアーランキングに異変が起きた。これまで Always Bridesmaid(いつも2番手の意)と揶揄されていたエンコスタデラゴが、ついにリーディングトップの座に輝いたのだ。2005/06シーズンはリダウツチョイス、2006/07シーズンはフライングスパーの2番手と泣かされたが、今回は、総取得賞金1000万ドルを突破して堂々の1位となった。2位のモアザンレディの総取得賞金が650万ドルだから、かなり水をあけている。代表的産駒は、オーストラリアンカップ、マキノステークスなどのG1を勝ったシルミオーネ、ジョージメイン、エブソムハンデなどを勝ったレーシングトゥウイン、ゴールデンズリッパーでは、シプリングに負けたものの、これからが期待されるヴォンコスタデヒーロー、コーフィールドカップ2着の古兵、デューローバレーなどがいて、活躍馬の年齢幅が広いのも特徴。レーシ

ングトゥウインは、G2ワリックステークスで、今シーズンの緒戦を飾っており、今年も引き続き産駒の活躍が期待されそうだ。

また、オーストラリア以外にも、香港のチャンピオンズプリンター、セイクレッドキングダムや、南アフリカで不敗を誇る2歳牝馬ムーリーンデラゴなどが活躍。1490万ドルを獲得して、南アフリカを含めたアジア太平洋地区のリーディングサイアーにも輝いている。このリーディングの2位には、ニュージーランドで繋養されているオーライリー、3位はフライングスパー、4位にザビール、5位にモアザンレディが入った。いよいよオーストラリアの生産シーズンが始まるが、エンコスタデラゴの種付け料は、22万ドルから27万5000ドルに上がった。

これまでは、オーストラリアのリーディングサイアーランキングでは、デインヒルとその息子たちがトップを独占していたのだが、2007/08シーズンは、1位にフェアリーキング産駒のエンコスタデラゴ、サザンヘイロー産駒のモアザンレディが入って、驚きの結果となった。トップ10には、フライングスパー(3位)、コマンズ(6位)、リダウツチョイス(9位)、デインヒルダンサー(10位)と4頭が入っているものの、今回のランキングは、オーストラリアの生産界の未来を占う面白い結果になった。ところで、2位になったモアザンレディの父サザンヘイローは、アルゼンチンで8回もリーディングサイアーになったトップスタリオンである。モアザンレディも、ゴールデンズリ



産駒シプリングの活躍もあって、昨シーズン2歳リーディングサイアーのトップになったモアザンレディは、総合ランキングでも2位となっている。写真は今年のゴールデンズリッパーを快勝したシプリング

筆者●プロフィール



Mariko Hyland ■ 団塊の世代。アナウンサー、コピーライターなどを経る。著書に「オーストラリアとニュージーランドの競馬ガイドブック」など。オーストラリア人の夫、2人の娘とシドニー在住。

ッパーの勝ち馬、シブリングを出しただけでなく、昨シーズンは138頭が走って、うち61頭が勝ち馬になるという、高い勝率を誇っている。シブリングは、スリッパー後すぐに右前脚の管骨に腫れが出たため休養に出ていたが、ウイデン牧場に3000万ドルで種馬として買われ、この春にレースに復帰、来年は種牡馬になる予定だ。モアザンレディの今年の種付け料は、10万ドル。リダウツチョイスの30万ドル、エンコスタデラゴの27万5000ドルから比べると格別に安い感じがするが、日本円にすれば1000万円ぐらいになるから決して安くはない。

2歳リーディングサイアー

2歳リーディングサイアーのトップは、シブリングでゴールドスリッパーをとったモアザンレディとなった。2位にはエンコスタデラゴが入った。産駒には前述のヴォンコスタデヒーローがいる。3位は、モアザンレディと同じヴァイナリーで繋養されているレッドランサム。同馬は、ご存知のようにロベルト産駒。やはりここにもオーストラリア生産界の変化が出てきていた。他に、オーストラリアのスプリント血統、ジェネラルナディウム（7位）、ファルベロン（8位）、そして、ショワジュール（9位）となり、日本からシャトルされているファルブラヴが10位と健闘した。

ファーストシーズンサイアー

今、ファーストシーズンサイアーランキングには凄いことが起きている。何かというと、ダーレーのサイアーがランキングに4頭も入っていることである。そして、1位のエクシードアンドエクセルの他は、インガムファミリーから引き継いだロンロが3位、リセットが7位、アンタッチャブルが10位となっていて、ダーレーは素晴らしい買い物をしたことになる。

エクシードアンドエクセルはヨーロッパでも活躍をし始め、英国のリーディングフ

ァーストクロップサイアーではトップになっている。8月23日には、産駒で2歳牝馬のインファミスエンジェルが、ニューマーケット競馬場でG2のロウザーステークスを勝った。この後は、10月3日ニューマーケットでのG1、チェヴァリーパークステークスに挑戦する予定。現在はヨーロッパ全体の2歳リーディングでは5位だが、インファミスエンジェルの活躍次第では、そのランキングも上がるだろう。英国ではまた、ダーレー所有でオーストラリア産のザビール血統、リセットもファーストシーズンサイアーランキングの7位に入っている。今後も、ダーレーが、ロンロなどオーストラリアの人気種牡馬をシャトルするとすれば、我々、オーストラリアの人間は、これまた楽しみが増えるというものだ（ランキングは8月23日現在）。

リーディングジョッキー

ここ数年は、ダレン・ビードマン騎手が独占していたシドニーのリーディングジョッキーだったが、2007/08シーズンは、ゲイ・ウオーターハウス厩舎の専属騎手として活躍したブレイク・シン騎手になった。しかし、今月になって、ダーレーオーストラリアのナンバーワンジョッキー、ケリン・マカヴォイ騎手が、ヨーロッパからオーストラリアに戻ると発表したの、シドニーをベースにする各騎手は、気が気ではない。香港から戻り、ドラッグ騒動も何とか頭の上を過ぎて、やっとオーストラリアで重賞レースに勝ち始めたコーリー・ブラウン騎手や、メルボルンからシドニーに移転したダニー・ニコリク騎手などは、かつて、インガム専属調教師、ジョン・ホークス師から多くの騎乗を貰っていたから、ケリン・マカヴォイ騎手の帰国は、彼らの鞍数に当然ながら大きな影響が出ることだろう。シドニーには、このほかに、香港からグレン・ボス騎手も戻ってくることになり、元々ジョッキー激戦区だったシドニーが更に加熱する

ことは必至だ。

アメリカに目を向け始めたオーストラリアの競馬

オーストラリアの強いドルの影響もあるだろうが、最近オーストラリアの生産者やオーナーの目が、アメリカに向けられている。オーストラリアの血統を連れていったり、アメリカで競走させたりする例が出てきた。最近も、ムーニーバレーレースクラブの会長であるボブ・スカボロー氏がアメリカで所有するモララカナにケント・デザモ騎手が乗って、G1のビヴァリーD・ステークスを勝った。この牝馬は、スカボロー氏がキーンランドの繁殖セールで、90万USドルで購入したものだが、まだ競馬に使えるということで、クリストファー・クレメント調教師の下に送った馬。なお、同馬は10月24日のブリーダーズカップ・フィリー&メアターフに登録されている。

今年のスプリングカーニバル

冒頭でも記した様に、馬インフルエンザのために、昨年のメルボルン・スプリングレーシングカーニバルに、クインズランド馬とニューサウスウェールズ馬は走ることができなかった。今年は、そのうっぶんを晴らすように、この二つの州から有力馬が向かう。迎え撃つのは、ビクトリア馬。今年は、コーフィールドカップとコックスプレートの本命馬として、4歳になってますます期待されるウイークエンドハスラーが早々と上がっている。同馬は、吉田勝己氏も生産に関わっている4歳馬で、G1の6勝を挙げている。先日、発表されたANZランキング（オーストラリアとNZのハンディキャッパーが決めるランキング）でも、122点で、2番手の評価だ。ウイークエンドハスラーの調教師は、彼は、2マイルを走れると公言しているから、もしかしてメルボルンカップ出走などというサプライズもあるかも知れない。



今シーズン、春競馬の主役になれるか。08年オークレイプレートで快勝したウイークエンドハスラー



今シーズンオーストラリアに復帰することになった、ケリン・マカヴォイ騎手